国民文庫

202

レーニン主義の諸問題

スターリン著
田中順二訳

国民文庫社

国民文庫

202

レーニン主義の諸問題によせて

他三篇

スターリン著
田中順二訳

国民文庫社

レーニン主義の諸問題

一九五二年十二月十五日初版発行
一九五五年一月十五日再版発行

定価六〇円

訳者　田中順二

発行者　東京都文京区本郷一丁目十五番地　小林直衛

印刷者　東京都文京区柳町二十六番地　山元正宣

発行所　東京都文京区本郷一ノ十五　株式会社　国民文庫社
電話小石川(92)一〇九一番
七八八七番
振替・東京一〇三八六五番

本製中田・印刷晃三

国民文庫

202

レーニン主義の諸問題によせて

他三篇

スターリン著
田中順二訳

国民文庫社

此为试读,需要完整PDF请访问: www.ertong

凡例

一　本訳書は、ソ同盟共産党（ボリシェヴィキ）中央委員会付属マルクス＝エンゲルス＝レーニン研究所編集の『イ・ヴェ・スターリン全集』第八巻所収の各当該論文を底本とした。

一　スターリンの原注は＊をもってしめす。訳者がつけた注のうち、ごく簡単な注は〔　〕にかこんで六ポイント活字で本文中にいれたが、他は事項注と人名注とにわけ、事項注は本文に出る注番号の順に、人名注は「アイウエオ」順に、それぞれ、巻末に一括して排列した。なお、〔　〕中の六号活字の語句は、訳者の補足である。

一　原文のゴシック体の箇所は訳文でもゴシック体にし、隔字体の箇所には傍点をつけて、それをしめした。ただ見出しのところは、かならずしもこの方針によらなかった。

一　邦訳の参照は、スターリンについては、『スターリン全集』（大月書店版）、レーニンについては、『レーニン二巻選集』（社会書房版）によった。したがって、角がっこ〔　〕中の巻数、分冊数、ページ数は、右の全集と選集の巻数、分冊数、ページ数である。

一　人名、地名は現地の発音にちかく表記することを原則としたが、慣用のものについては、それをもちいたばあいが多い。

目次

レーニン主義の諸問題によせて

一　レーニン主義の規定……七
二　レーニン主義における主要点……一〇
三　「永続」革命の問題……一四
四　プロレタリア革命とプロレタリアートの独裁……一七
五　プロレタリアートの独裁の体系内での党と労働者階級……二二
六　一国での社会主義の勝利の問題……六九
七　社会主義建設の勝利をめざす闘争……八九

労働者階級の同盟軍としての農民層について……一〇八

わが国における社会主義建設の可能性について……一二三

ソ同盟の経済情勢と党の政策について……一二八

一　ネップの二つの時期……一一九
二　工業化の方針……一二二
三　社会主義的蓄積の諸問題……一二四
四　蓄積のただしい利用。節約政策……一三二
五　工業建設者のカードルをつくりださなければならない……一四一
六　労働者階級の積極性をたかめなければならない……一四三
七　労働者と農民との同盟を強化しなければならない……一四五
八　党内民主主義を実行しなければならない……一四八
九　党の統一をまもらなければならない……一四九
一〇　結　論……一五一

解　説……一五五

人名訳注……巻末1
事項訳注……巻末5

レーニン主義の諸問題によせて

ソ同盟共産党（ボリシェヴィキ）
レニングラード組織にささげる
イ・スターリン

一　レーニン主義の規定

小冊子『レーニン主義の基礎について』のなかで、レーニン主義についてあきらかに一般の承認を得ている、周知の規定があたえられている。その規定はつぎのように言っている。

「レーニン主義は、帝国主義とプロレタリア革命の時代のマルクス主義である。もっと正確にいえば、レーニン主義は、一般的にはプロレタリア革命の理論と戦術であり、特殊的にはプロレタリアートの独裁の理論と戦術である。」〔全集第六巻、八六ページ〕

この規定はただしいだろうか？

私は、ただしいと考える。この規定がただしいというのは、第一に、レーニン主義がうまれた

のは帝国主義戦争後であったとあやまって考えている若干のレーニン批判家とは反対に、レーニン主義を**帝国主義の時代**のマルクス主義と特徴づけることによって、レーニン主義の歴史的根底をただしく指摘しているからである。それがただしいというのは、第二に、レーニン主義をただ一国の、ロシアの事情のもとでしか適用しえないものと考えている社会民主主義者とは反対に、レーニン主義の国際的性格をただしく強調しているからである。それがただしいというのは、第三に、レーニン主義をマルクス主義のいっそうの発展としてではなく、ただマルクス主義を復活させて、それをロシアの現実に適用したにすぎないものと考えている若干のレーニン主義批判家とは反対に、レーニン主義を帝国主義の時代の**マルクス主義**と特徴づけることによって、レーニン主義とマルクスの学説との有機的な関連をただしく強調しているからである。

以上のことはすべて、特別の注釈を必要としないもののようである。

それにもかかわらず、わが党内には、どうやら、レーニン主義をこれとはすこしちがったように規定する必要があると考えている人たちがいるようである。たとえば、ジノヴィエフは、つぎのように考えている。

「レーニン主義とは、帝国主義戦争と、**農民が多数をしめている国で直接にはじまった世界革命**との時代のマルクス主義である。」

ジノヴィエフが強調していることばは、なにを意味するであろうか？　レーニン主義の規定のなかにロシアの後進性とロシアの農民的性格をもちこむことは、なにを意味するか？

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertong

それは、レーニン主義を国際的なプロレタリア的学説から、ロシア独特の産物に転化させることを意味する。

それは、レーニン主義が資本主義的にいっそう発展している他の国々にとって役にたつことを否定するバウアーとカウツキーとをたすけることを意味する。

農民問題がロシアにとってきわめて重要な意義をもっていること、わが国が農民的な国であることは、いうまでもない。だが、この事実はレーニン主義の基礎の特徴づけにどんな意味をもちうるであろうか？　はたしてレーニン主義は、ロシアの地盤のうえで、ロシアのためにつくりだされただけのものであって、帝国主義の地盤のうえで、帝国主義諸国一般のためにつくりだされたものではないのであろうか？　『資本主義の最高の段階としての帝国主義』、『国家と革命』、『プロレタリア革命と背教者カウツキー』、『共産主義における「左翼」小児病』等々のようなレーニンの労作は、ロシアにだけ意味があるものであって、すべての帝国主義国一般にとっては意味がないのであろうか？　レーニン主義は、**すべての**国の革命運動の経験を普遍化したものではないのだろうか？　レーニン主義の理論と戦術との基礎は、**すべての**国のプロレタリア政党にとって役にたち、かつ、かならずあてはまるものではないのだろうか？　「ボリシェヴィズムは**すべての国にとって戦術の模範として役だつ**」（第二八巻、二七〇ページ参照）〔『プロレタリア革命と背教者カウツキー』—第一〇分冊、一三六ページ〕と言ったレーニンは、ただしくはなかったのだろうか？　「ソヴェト権力およびボリシェヴィキ的理論と戦術との基礎の**国際的意義**＊」（第三一巻、六ページ参照）〔『共産主義における「左翼」小児病』—「分冊—第二左

つぎのことばはただしくはないのだろうか？――

「ロシアでは、プロレタリアートの独裁は、わが国の非常に大きな後進性と小ブルジョア的性格とのために、先進諸国とくらべると、いくつかの特性の点で必然的に異ならざるをえない。しかし、ロシアにおける基本的勢力――および社会経済の基本的形態――は、どの資本主義国におけるものとも同じものであるから、**これらの特性は、もっとも主要なものではないものについてだけのこととなる**。*」（第三〇巻、八八ページ参照）（『プロレタリアートの独裁の時期における経済と政治』――第一分冊、一一五ページ）（＊ゴシックは私による――イ・スターリン）

だが、もしこれがみなただしいとすれば、このことから、ジノヴィエフがあたえたレーニン主義の規定は、ただしいものとみとめることはできない、という結論が出てきはしないであろうか？

レーニン主義を一国に限定したこの規定を、どのようにして国際主義と両立させることができようか？

二　レーニン主義における主要点

小冊子『レーニン主義の基礎について』のなかでは、つぎのようにのべられている。

冊、五ページ）についてかたったレーニンは、ただしくはなかったのだろうか？　たとえば、レーニンの

「レーニン主義の基本的なものは農民問題であって、レーニン主義の出発点は、農民の問題、その役割、その比重の問題である、と考えている人がある。これはまったくまちがっている。レーニン主義の基本問題、その出発点は、農民問題ではなくて、プロレタリアートの独裁の問題であり、それをかちとる諸条件、それを強固にする諸条件の問題である。農民問題は、プロレタリアートの権力獲得のための闘争における同盟軍の問題として、派生的な問題である。」〔全集第六巻、一三七ページ〕

この命題はただしいだろうか？

私は、ただしいと考える。この命題は、まったくレーニン主義の規定から出てきている。実際に、もしレーニン主義がプロレタリア革命の理論と戦術であり、そしてプロレタリア革命の基本的内容がプロレタリアートの独裁であるならば、レーニン主義における主要点が、プロレタリアートの独裁の問題にあり、この問題の究明、この問題の基礎づけと具体化にあることは、あきらかである。

それにもかかわらずジノヴィエフは、あきらかにこの命題に同意していない。『レーニンの思い出』という論文のなかで、彼はつぎのように言っている。

「農民の役割の問題は、すでにのべたように、ボリシェヴィズムの、レーニン主義の、基本問題である。」(*　傍点は私による—イ・スターリン)

ジノヴィエフのこの命題は、諸君の見られるように、まったくジノヴィエフがあたえたレーニ

ン主義についての誤った規定から出ているものである。だから、レーニン主義についての彼の規定がただしくないように、この命題もまたただしくない。

プロレタリアートの独裁は「プロレタリア革命の根本的内容」（第二八巻、二一一ページ参照）〔第一〇分冊、三三ページ〕である、というレーニンのテーゼはただしいか？　絶対に正しい。レーニン主義はプロレタリア革命の理論と戦術である、というテーゼはただしいか？　私は、ただしいと思う。だが、このことから、どういう結論が出てくるか？　このことからは、レーニン主義の基本問題、その出発点、その土台は、プロレタリアートの独裁の問題である、という結論が出てくる。

帝国主義の問題、帝国主義の発展の飛躍的性格の問題、一国での社会主義の勝利の問題、プロレタリアートの国家の問題、この国家のソヴェト的形態の問題、プロレタリアートの独裁の体系内での党の役割の問題、社会主義建設の方法の問題、――これらすべての問題は、まさにレーニンによって究明されたものであるということは、ただしくないだろうか？　ほかならぬこれらの問題こそが、プロレタリアートの独裁の思想の基礎、その土台をなすということは、ただしくないだろうか？　これらの基本的問題を究明することなしには、プロレタリアートの独裁の見地からする農民問題の究明も考えられないであろうということは、ただしくないだろうか？

レーニンが農民問題に精通していたことは、いうまでもない。またプロレタリアートの同盟軍の問題としての農民問題が、プロレタリアートにとってきわめて重要な意義をもち、プロレタリアートの独裁という基本問題の一構成部分であることも、いうまでもない。だが、プロレタリア

ートの独裁という基本問題がレーニン主義のまえに提起されなかったならば、プロレタリアートの同盟軍という派生的な問題、すなわち農民の問題も存在しなかったであろうことは、あきらかなことではないだろうか？　もしプロレタリアートによる権力の獲得という実践的な問題がレーニン主義のまえに提起されなかったならば、農民との同盟という問題も在在しなかったであろうことは、あきらかなことではないだろうか？

もしレーニンが、プロレタリアートの独裁の理論と戦術とにもとづかずに、この基礎とはなれて、この基礎のそとで、農民問題を究明したのであったならば、レーニンは、うたがいもなく実際にそうであるような、もっとも偉大なプロレタリア思想家ではなかったであろうし、外国の文筆的俗物どもがしばしば彼をそうえがいているような、たんなる「農民哲学者」であったであろう。

二つに一つである。すなわち、――

農民問題がレーニン主義における主要なものであるか、――そうだとすれば、レーニン主義は、資本主義的に発達している国にとっては、すなわち農民国家でない国にとっては、役にたたず、かならずあてはまるものではない。

それとも、プロレタリアートの独裁がレーニン主義における主要なものであるか、――そうだとすれば、レーニン主義はあらゆる国のプロレタリアの国際的学説であって、資本主義的に発達している国をもふくめて、例外なくすべての国にとって役にたつものであり、かならずあてはま

るものである。

ここで、どちらかをえらばなければならない。

三　「永続」革命の問題

小冊子『レーニン主義の基礎について』のなかでは、「永続革命の理論」は、農民の役割を過小評価する「理論」であると評価されている。そこでは、こうのべてある。――

「レーニンが、『永続』革命の支持者たちとたたかったのは、連続性の問題についてではなく（レーニン自身が連続革命の見地に立っていたのであるから）、彼らがプロレタリアートの最大の予備軍である農民の役割を過小評価したためである。」〔全集第六巻、一一八ページ〕

ロシアの「永続革命論者」をこのように特徴づけることは、最近まで一般に承認されたものと考えられていた。それにもかかわらず、この特徴づけは、一般的にはただしいものであるとしても、しかし、それはすべてを言いつくしているものとみとめることはできない。一方では一九二四年の論争と、他方ではレーニンのもろもろの労作の綿密な分析とは、ロシアの「永続革命論者」の誤りが、たんに農民の役割の過小評価にあったばかりではなく、さらに、農民をひきいてゆくプロレタリアートの力と能力との過小評価に、またプロレタリアートのヘゲモニーの思想にたいする不信にもあったことをしめした。

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertong